

年度 2007 学期 後期	曜日・校時 木 4	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	社会と歴史 (地域活性化と住民主体のまちづくり) Society and History (Empowerment of Local Community and Self-Development of Resident)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 新田 照夫 / Eメールアドレス: t-nitta@net.nagasaki-u.ac.jp / 研究室:生涯学習教育研究センター			
授業のねらい/授業方法(学習オフィスアワー:10:30~12:00 指導法)/授業到達目標			
授業のねらい: 本講義は長年地域で「地域活性化のまちづくり」に携わってきた者として、転換期にある日本社会の流れの中で「地域活性化と住民主体のまちづくり」について、具体的実践事例を踏まえながら学生と一緒に考えていくことを目的としている。			
授業方法: 指定のテキストに加えて、教師が提示する教材と資料に基づいて授業を行う。			
授業到達目標: 「地域活性化と住民主体のまちづくり」について、転換期にある日本社会の流れの中で理解できるようになること。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週の授業内容を含む) 授業内容(概要) 高度経済成長の中で、日本の社会はあらゆる機能が中央集中的システム中に組み込まれ、地方の自治機能や経済力が弱くなってしまっている。その結果、中央に集中した人的資源も含めた社会的財を地方が再吸収することが難しいばかりでなく、地方が独自に人的資源や社会的財を蓄積することすらも困難になっている。こうしたいわば「脳血栓状態」ともいえる日本の社会を再建するためには、地方が独自に人的資源や社会的財を蓄積する力を強める以外に道はないように思われる。幸いバブル崩壊以降、急激に成長している第三次産業の力は、国家を軸とした中央集中的システムを崩壊させ、自立・個性化した地域社会がお互いネットワークで結ばれ、連携していく社会を求めるようになっている。こうした社会の流動化の中で地方は自立性と個性化が求められるようになり、こうした時代の流れに乗れない地方自治体は国によって切り捨てられようとしている。本授業ではこうした現実を見つめるなかで、日本の社会が進むべき道について考える。			
授業内容(毎週の授業内容を含む) A:はじめに 第1回 私たちの生活と社会:「生きる」「生活する」「大人になる」「学び」を考える 第2回 社会学の二つの系譜:「規範科学」としての社会学と「現実科学」としての社会学 B:住民自治の創造とその担い手育成としての生涯学習 第3回 社会システムの根幹としての公教育制度とそれを再編成する理念としての生涯学習 第4回 「教育の歴史的的理解」としての生涯学習 第5回 意図的に作られる社会的弱者:女性に対する暴力が頻発する理由および社会的背景を考える 第6回 女性とジェンダー問題:女性の社会進出とセクハラ二次被害の問題について考える C:地域サービスとしての生きがい学習から住民自治を創造する生涯学習へ 第6回 「社会関係」という「物や形として現れない価値」を生産する「地域づくり・まちづくり」と住民の学習 第7回 「一つの大きな社会的力」としての第3次産業社会からの教育的要請 D:転換期にある現代社会と新たな公共空間の出現 第8回 転換期にある現代社会:転換期にある工業化社会と私たちの生活価値観の変化 第9回 「個」と「社会的規範価値」:公共空間の規範としての社会的規範 第10回 社会的規範価値の欧米比較:自然観・社会観の違いと規範価値の作り方の相違 E:国家に直接結び付く「公」の概念の希薄化と新たな「公共」場面の登場 第11回 規格・基準行政からの解放と社会教育を通じた新しい公共性の広がり 第12回 採算性や経済効率性では対応が難しい生活領域に対応する新しい住民自治の広がり 第13回 公共性をめぐる欧米の学説から導きだされる「新しい公共性」 F:まちづくりと住民の主体形成 第14回 「学び」と「公共性」 第15回 「公共財としての学び」の事例:お店やさんが先生です(大村市中央商店街)			
キーワード	社会の流動化、地域社会の自立・個性化、地域活性化、住民主体のまちづくり		
教科書・教材・参考書	教科書:新田照夫『生涯学習と評価:住民自治の主体形成をめざして』(大学教育出版:岡山)		
成績評価の方法・基準等	毎回学生が提出するレポートと授業への積極的参加状況 100% 定期試験:実施しない		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)	講義ノートをきちんと板書すること。また毎回の講義テーマについての感想を、自分の意見に基づいて述べること。		